

2022年8月中旬の戻り高値からこの原稿を書いている10月初旬現在まで、日本の株式相場は明確な下げ相場が続いている。

その結果、大多数の個人投資家が大きな含み損を抱えて、一体どうすればいいのか分からず途方に暮れている。なぜそんなことになってしまったのか。大多数の個人投資家が通年で損をする最大の理由は、「株は常に買うもの」というある種の「買い信仰」のために、本来なら売るべき

実学の株式投資技術の必要性(19)

はずなのに、ほとんどの個人投資家は手段であるはずの「買うこと」だけに意識が向き過ぎる結果、下げ相場になっても無為無策でロング・ポジション(買

い持ちポジション)を維持する。だからその当然の帰結として損をするのである。緊急避難のために一旦売ってもいつでも簡単に買い戻せるにもかかわらず、売らないのである。つまり、利益を上げるといいう目的に照らして正しいことをやっていない、むしろ、下げ相場では反対のことをやっている。では、何をどうすべきか。下げ相場に転換したら、すべて現金化して下げ相場

なぜ個人投資家は

損ばかりするのか

とここで売らないからである。

株式投資の真の目的は「買う」ことではなく「儲(もう)ける」ことである



愛知淑徳大学 経営学部 教授 三矢 幹根

の嵐が通り過ぎるのを待つ。信用売りを活用して売りとなぎ玉を建てて相場の変動から影響を受けないようにする。あるいはもう一歩踏み込んでポジションを「売り長」(買い玉枚数以上に信用売り玉枚数を建てる)にすることにより下げ相場でも逆に儲かるような建玉操作をすれば良いだけの話である。問題解決のための処方箋(せん)は実に単純である。もちろん、このようなことが融通無碍(ゆうずうむび)に判断・実行できることが「技術」である。技術は単に書物や論文を読むだけの「お勉強」で身に付けることは不可能であり、幾百もの実戦の修羅場を体験・経験してのみ習得できる「技能」が必須である。しかし、中途半端な秀才型の「頭でっかちなお利口さん」は技能の重要性を軽視する一方で理論を偏重し過ぎる。現代ポートフォリオ理論(MPT)を盲信して分散投資すればそれで十分であるというタイプにも思っているようである。ところが現実には、リーマンショックの頃から顕著になっているが、世界を覆うような大きな悪材料が飛び出してくると、どんな国のどんな資産もほとんどがほぼ同時に下げることが多くなつた。株式は国を超えて世界中で大多数の銘柄が急落するし、債券もビットコインに代表される暗号資産も株式と同時に大きく下げることが珍しくなくなってきた。つまり、世界がますますグローバル化するに連れて、分散投資をしてもかつては有効だった分散効果が大きく低下してきているのである。そして一旦価格が急落すると元の水準に回復するのに早くても半年、遅い場合は数年以上も時間がかかるとなる。なぜ、そんなことになったのか。それは頭の中が常に「買い」しかなく、売るべき時に売らないからである。これが株式投資・トレードにおける個人投資家の最大の過ちである。

みつや・みきね コーポレートファイナンス・証券投資論・株式投資・トレード技術。元ドイツ銀行名古屋支店支配人。英国リース大学経営学大学院・MBA(Finance)。1959年生まれ。